

教育的価値	具体の項目	教育課程
2【かかわる】	<p>⑩【県内外や海外の人々とのつながり】 苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し、共に協力することの大切さを実感する。</p> <p>⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。</p>	総合的な学習の時間

【復興教育の視点】

- 1 東日本大震災津波についての事実と当時の花巻市のようすを知り、学ぶ。
- 2 被災地の訪問により現状を体感するとともに、現地でのボランティア活動を行う。
- 3 東日本大震災を取り上げた学習活動を通じて、自らのあり方を考え、郷土岩手のため、生まれ育った地域の復興・発展を支える人材を育成する。

【実践の概要】 総合的な学習の時間の主な学習内容（平成26年度）

学年	学年テーマとねらい	主な学習内容
第1学年	<p>「震災から学ぶ」 花巻市内</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の被害状況を知る。 ・震災時の花巻の状況を知る。 	<p>○花巻温泉での講話と勤労体験学習 講話 「復興支援部隊を支えた宿」 震災時の花巻市での人々の対応や復興のようすを知ることにより、地域の発展のために自分がすべきことを考える。</p>
第2学年	<p>「震災から学ぶ」 岩手県沿岸部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地の当時のようすと復興の現状を知る。 ・被災地でボランティア活動を行う。 	<p>○宿泊研修（陸前高田市、釜石市、大槌町訪問） 被災地で現在までの状況を聞くことにより、復興の現状を知る。 ○宿泊研修で学んだことを発信する。</p>
第3学年	<p>「修学旅行での講話」 東京 「震災から学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三年間の学習をまとめ、文化祭で全校・地域の方々に発信する。 	<p>三年間の学習を通して、現在の自分ができていることは何かを見つめることにより、自らのあり方を主体的に考える。</p>

【実践の詳細】

1 全校

【生徒の感想】

震災については、たくさん学んできたつもりだったけれど、山田町の生徒と内陸の私たちとは、考え方や未来への希望の持ち方がまったく違って、山田町の生徒は「自分のためではなく、津波で家族を亡くしてしまった人々のため」を思っていることが強く伝わりました。私は10年後も想像できていません。それなのに山田の方は10年後よりも、20年後の方を想像し、自分に何ができるか、この町のためには何ができてをを考えて夢にしているのかなと思いました。また、私は将来の仕事は決まっていますが、山田の方々のように、自分、これになり、こういうことをして、このように人のために役に立ちたい！ときちんと考えて、将来を決めたいです。



演題 「震災に学ぶ」
 講師 山田町教育委員会
 教育長 佐々木 毅 氏

2 第2学年 「宿泊研修」（被災地の現状を知る）



「未来へ語り継ぐ陸前高田 被災ガイド2時間コース」
 （ガイドさんからの説明）



「三陸鉄道南リアス線 震災学習列車」乗車
 （盛駅～釜石駅）



「大槌町 菜の花プロジェクト」
 （ボランティア体験）

3 吹奏楽部 「被災地支援及び交流活動」 (花巻市障害福祉サービス事業所「わたぼうし」からの協力要請を受けて)

大船渡市の長洞仮設住宅を訪問し、ボランティア活動に取り組んだ。あいにくの雨天ではあったが、入居者と協力しながらプランターに一つ一つの花苗を丁寧に植付けて、親睦の輪を広げた。



【生徒のようす】 「雨だったけど、花をみんなで植えることができて楽しかった。被災地に行く機会は少なかったの、とても良い経験になった」と充実した表情を浮かべていた。

【授業の展開】 第2学年「震災から学ぶ(3) ～震災を語り継ぐ活動に取り組もう～」

1 題材の目標 「震災から学ぶ」学習での成果を、2年生が1年生に対し、自分なりの工夫を凝らして発信する活動を通して、発信することの楽しさを感じるとともに今後の自己の生き方を考える機会とする。

2 本時の展開

段階	学 習 活 動
導 入	1 学習課題の確認 1年生に「震災に学ぶ」の学習と今日のねらいを説明する。 1年生は2年生の発表を聞いて、「震災学習に学ぶ」学習の見通しをもとう。 2年生は、自分たちが学んできたことを分かりやすく1年生に伝えよう。
展 開	2 ポスターセッション (1) 2年A組(5班)が1年生(学年を5班に編成)及び2年B組(5班)に対し、それぞれグループ発表をする。 ・発表時間 6分 ・質疑・感想カード記入 3分 (2) 2年B組が同様に発表する。 2年生は、各班2回発表する。
終末	3 学習のまとめ 1年生の感想発表



【パワーポイントを使用している発表班】



【手書きパネルを使用している発表班】

【まとめ】

いわての復興教育の意義を具現化するため、「震災を語り継ぐ活動」に取り組むことは必要不可欠なことである。情報のインプットとアウトプットのバランスのとれた学習活動にするためにも、宿泊体験で多くの貴重な体験をしてきた第2学年において、自分の学びを表現する活動に取り組むことは有意義である。

今後も「震災に学ぶ」の学習を系統的に継続することにより、自分の学びや感情、考え方を整理したり、仲間の考えと比較したりすることで自己の生き方をより深くみつめさせたい。